

児童発達支援・放課後等デイサービス評価表【保護者用】

公表日：2021年 12月 1日

事業所名：放課後デイゆりのき

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	34名	6名	1名		もう少し広ければいいな。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	35名	4名	2名		
	3 生活空間は、本人にわかりやすい環境になっているか。また、障害の特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切されているか	41名				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	40名	1名			
適切な支援の提供	1 子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画が作成されているか	39名	2名			
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	40名	1名			
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われているか	40名			1名	
	4 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	40名			1名	工夫された療育をしていただきとてもうれしく思う
	5 児等発達支援の場合は保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合は放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会があるか	10名	5名	3名	23名	必要ない
保護者への説明等	1 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	40名	1名			
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながら、支援内容の説明がなされたか	41名				
	3 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	18名	6名	3名	14名	
	4 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	39名	2名			必要時に相談にのってもらっている。
	5 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	39名	2名			
保護者への説明等	6 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6名	4名	12名	19名	必要ない
	7 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	28名	1名		12名	
	8 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	40名	1名			

区分		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
(続き)	9	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定などについて、子どもや保護者に対して発信しているか	23名	5名	4名	9名	連絡帳に詳しく用紙を記入。写真がわかりやすい。
	10	個人情報の取扱いに十分注意されているか	40名			1名	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	28名	1名	3名	9名	
	2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	26名	2名		13名	
満足度	1	子どもは通所を楽しみにしているか	40名			1名	送迎車をみると表情が変わる。嬉しそう。
	2	事業所の支援に満足しているか	40名	1名			とてもよくしていただき満足している。スタッフの雰囲気があたたかくてよい。

回答率 41/45

【チェック項目の欄に関する注釈】

「本人にわかりやすく構造化された環境」とは

この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

「児童発達支援計画」又は「放課後等デイサービス計画」とは

児童発達支援又は放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

「活動プログラム」とは

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

「ペアレント・トレーニング」とは

保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

